

HOT SUCCESS!

導入事例

導入企業のご紹介



株式会社ヤマダ電機

http://www.yamada-denki.jp/

設立：1983年9月(創業:1973年4月)

資本金：単体707億円
(2009年3月31日現在)

従業員数：単体1万7498人
(2009年3月31日現在)

事業内容：家庭電化製品ならびにオーディオ機器・健康器具・介護関連機器・OA機器の販売と修理、ビデオソフトレンタル、ソフトセル、書籍の販売

本社所在地：群馬県高崎市栄町1-1

TEL：(027)345-8181(代表)



■ 認証取得プロジェクトチーム
赤穂 俊次氏

上席理事
IT事業本部 システム事業部
システム開発部 部長

サービスの概要

● サービス名称：情報セキュリティコンサルティングサービス、ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)認証取得支援コンサルティングサービス、ISO/IEC 27001 対応継続審査支援コンサルティングサービス。

● サービス概要：企業の情報セキュリティに関するコンサルティングを包括的に行うサービス及び、経験豊富な認証取得ノウハウを持つコンサルタントによるISMS 認証取得支援サービス。

■ 日本ユニシス株式会社
共通利用技術部モデルウェア技術室
情報セキュリティグループ
真田 大志



情報セキュリティコンサルティングサービス

- ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)認証取得支援コンサルティングサービス
- ISO/IEC 27001 対応継続審査支援コンサルティングサービス

株式会社ヤマダ電機 様

豊富な実績と高度なノウハウに基づくコンサルティングサービスを活用し、
情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を短期間で取得

導入の背景

家電量販店業界トップの社会的責任を果たすためにISMSを導入

家電量販店業界のリーディングカンパニーであるヤマダ電機様は、CSR経営を実践するため、「情報管理意識を徹底させる」経営ポリシーのもと、セキュリティ対策に取り組んできた。

その過程において、2005年4月に個人情報保護法が全面施行となり、個人情報の管理に対する世間の関心が急速に高まる。IT事業本部 システム事業部 システム開発部 部長 赤穂俊次氏は、同社の情報セキュリティ管理について次のように語る。

「当社が取り扱うお客様の情報は、膨大な数にのぼり

ます。情報漏洩が自社の基盤を揺るがしかねない社会情勢となる中で、セキュリティレベルの向上は急務でした」

一方、2005年前後から、家電量販店業界全体に情報マネジメントシステムの構築機運が急速に高まる。業界トップ企業として社会的責任を果たすことが求められているヤマダ電機様としても、情報マネジメントにおいて他社に遅れを取るわけにはいかない。そこで、同社はISMS認証を取得し、PDCAを回すことで、適切なセキュリティレベルを維持・向上することを目標に掲げた。

POINT!

- 適切なセキュリティレベルを維持・向上させたい
- PDCAを回しながら継続的にセキュリティを強化する体制を作りたい
- 企業としての社会的責任を果たしたい

選定理由

短期間の取得を目指してコンサルティングサービスを活用

ISMS認証の取得で、ヤマダ電機様はスピードを最優先に掲げた。そこで、短期間に取得するためにコンサルタントの活用を決断し、日本ユニシスをパートナーに選定する。採用の決め手は、実績とノウハウだ。日本ユニシスは、2001年に情報セキュリティ管理の国際標準であるBS7799認証を日本で初めて取得。翌2002年にはISMS認証を取得し、強固なセキュリティ管理環境を提供してきた。

「高度なノウハウを持ち、コンサルティングの経験も

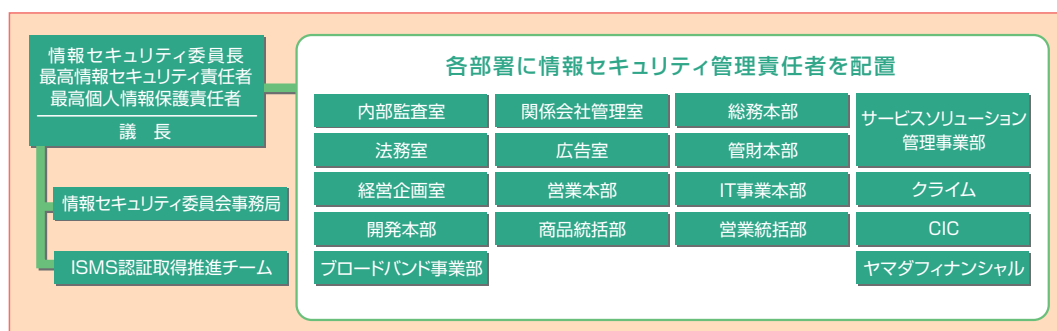
豊富な日本ユニシスは、短期間に効果的なセキュリティ対策を実現したい当社の要望にマッチしていました。また、過去の取引実績から、サポート力やレスポンスの良さは高く評価していました」(赤穂氏)

2005年9月、ISMS認証のプロジェクトチームが組織され、認証取得プロジェクトがスタート。ISMSの導入範囲は、スピードを優先して絞り込み、高度な情報管理が要求される本社の法人事業部、情報システム部、Web事業部の3部門とした。

POINT!

- コンサルタントの支援を受けることで短期間での取得が可能
- 日本ユニシスの高品質なセキュリティコンサルティングノウハウ及び豊富な経験と実績
- 過去のセキュリティソリューションの導入実績、コミュニケーションにおけるレスポンスの速さ

情報セキュリティ委員会体制図



株式会社ヤマダ電機 様

コンサルティングのポイント

的確なアドバイスを受け、スムーズにリスクアセスメントを実施

ISMS認証の導入に際し、同社は書類の整理と社員の意識改革から始め、セキュリティ意識が浸透した段階で「リスクアセスメント」に移行。日本ユニシスのコンサルタントの支援を受けてリスクを分析し、リスクの高い順にセキュリティ対策を施していった。

「リスク分析の結果を見て、経営陣が指定したレベルより高いリスクに対してはセキュリティ対策を実行し、リスク値をクリアできなかったものについては、別方向からのセキュリティ対策を講じました。対策を立てて検証を繰り返しながら、課題を一つひとつ克服していきまし

た」(赤穂氏)
リスクアセスメントに要した期間は約1カ月半。赤穂氏は「日本ユニシスの的確なアドバイスのもと、情報量の多さを考慮すると予想以上に作業をスムーズに進めることができました」と語る。

ISMS認証の導入には、複雑な規程やマニュアルの作成がつきものだ。プロジェクトでは

ユーザー向けマニュアルを簡略化することで徹底して解りやすさを追求。解りやすい図や絵を使い、理解を助けるための工夫をしている。「日本ユニシスさんからは『必要な要素が盛り込んであれば問題はありません。分かりやすいマニュアルを作りましょう』と提案していただきました」(赤穂氏)

一方、社内では、セキュリティポスター、啓発スクリーンセーバー、啓蒙シールを作成し、社員一人ひとりが確実にセキュリティ対策を実施するための工夫を凝らした。

同時に、社内のセキュリティ委員会において、プロジェクトチームがISMS認証取得の意義や重要性を説明。会長や社長をはじめとする役員に対し、

協力・支援を訴えた。このように、ボトムアップ型とトップダウン型の両方を活用することで、セキュリティレベル全体の底上げを図ることに成功した。



<啓発スクリーンセーバーの利用シーン>

POINT!

- 作業が複雑になりがちなリスクアセスメントに対する効果的な支援
- 実現可能なPDCA サイクル構築によるセキュリティレベルの向上
- 簡単で分かりやすいユーザー／管理者用マニュアルの作成支援
- エンドユーザ向け啓蒙活動へのヒントとトップダウンによるセキュリティ活動支援

効果と今後の展望

社員の意識改革と、情報管理の徹底化が実現

書類作成、セキュリティ教育の実施等の工程を踏み、ヤマダ電機様は2006年7月5日にISMS認証を取得した。導入プロジェクトについて、赤穂氏は「日本ユニシスのノウハウや経験を活用することで、投資効果の高いセキュリティ対策が短期間に実現しました」と評価する。

大きな効果が現れたのは、社員の意識改革だ。「デスク周りも常に整理整頓され、機密情報が放置されることがなくなりました」(赤穂氏)。

また、2008年4月から始まった内部統制

報告制度、いわゆるJ-SOX法に対しても、ISMSのPDCAで回したノウハウを活用することで、スムーズに対応できた。

今後は、当初からの目標であった対象部署の全社的拡大を検討。グループ企業に対してもISMS

認証の取得を積極的に推進していく考えだ。「その際、当社のメンバーが主体で導入コンサルティングを担当し、日本ユニシスにサポートを依頼する体制で臨めれば、導入コストの削減につながるでしょう」と赤穂氏は展望を明らかにしている。

POINT!

- 投資効果の高いセキュリティ対策が短期間に実現
- 社員の個人情報管理に対する意識の向上
- 内部統制報告制度への対応に、ISMSのPDCA サイクルを活用
- ISMS 認証取得対象部署の全社的拡大及びグループ企業への展開

事例のポイント

- 短期間にISMS認証を取得するためにコンサルタントを活用。パートナー選びでは、実績とノウハウを重視した。
- コンサルタントの意見を採り入れて情報資産への脅威を洗い出した結果、短期間に効果的なリスク分析が実行できた。
- 図や絵を挿入し、解りやすいマニュアルを作成。豊富なテンプレートを活用し、書類作成にかかる時間を短縮した。

●日本ユニシス担当者からの一言

類を見ないほどのスピード感で経営を推進されているヤマダ電機様は、実績豊富な日本ユニシスのノウハウや、テンプレートを積極的に活用し、PDCAサイクルを短く回すことで、短期間にISMS認証を取得されました。導入後も常にPDCAサイクルを回しながら1年に1回の更新作業を実行され、当社も規格のバージョンアップや監査等で支援させていただきます。2008年にヤマダ電機様の本社が前橋市から高崎市に移転した際も、早い段階からセキュリティ対策を組み込むことができました。その結果、ヤマダ電機様のセキュリティレベルは格段に進化を遂げました。